



ほけんだより



2022年2月5日 保健室

40代男性のコロナ感染経験から

コロナに感染して1週間たっても倦怠感などが残っていて、「発熱、のどの痛み、咳がつかつた。一番つらかったのは高熱で熱が高すぎて夜も寝られない状況でした。鼻水や下痢もありました」と話していたそうです。家族で近場に旅行をしたくらいで、濃厚接触者にあつたわけでもなく、どこで感染したかわからないとのこと。(NHK ネットニュースより)

高校生のコロナ感染経験から

コロナに感染しホテル生活だったが、食事はお弁当でおいしいとは言えず、咳がずっとひどくて咳止めが処方されるもほとんど効かず、眠れない日々が続いた。家族にも会えず、ホテルで何もすることもできずただ辛かった。隔離が解除され登校したが、しばらく咳が続き、受診しようとするも、隔離が解除になったにも関わらず病院側はすんなり受け入れてくれず、別室でやっと対応され薬を処方された。その咳は原因不明で、1か月くらい続いた。

インフルエンザに感染して

38℃を超えた熱がでたため受診すると、コロナ感染の疑いをもたれ、コロナの検査を行い、結果が出るまで様子をみななければいけなかった。その間は、頭痛と吐き気で食欲がなく、辛かった。次の日にコロナ陰性の結果が出て、前日受診した医療機関が休みだったため、違う医療機関を受診したが、熱があるためスムーズに受診できず。やっと受診し、インフルエンザの検査を行い、インフルエンザが判明。やっとインフルエンザの特効薬を服用することができたが、服用するまでの苦しい時間が長かった。

胃腸炎からの入院へ（ノロウイルス陰性、コロナ陰性）

先週私の次女が朝から腹痛があると訴えた。味噌汁のみ食べ、平熱であったことから、学校に行けるか尋ねると行けるとのことで登校したが、給食が食べられないと担任の先生から電話があり、早退した。話を聞くと3校時にトイレで嘔吐したとのこと。その後小児科を受診、すぐに済生館を紹介され、コロナの検査、検便、レントゲンなどの検査、念のため浣腸の処置をしても改善せず、入院の運びとなった。娘は終始腹痛を訴えていて、一切食事や水分が摂れず点滴が開始となりその晩は38.3度の熱があつた。その後徐々に回復し、食事も摂れるようになり退院した。入院の際は、付き添いの私も抗原検査をしなければならなく、そのため院外への外出もできず制限が多くてコロナ禍の入院はいつも以上に気を使うことを実感した。因みに、他の家族はみんな元気でした。

体験より、貴重なお話を提供していただきました。体験したからこそわかる辛さがあるようです。コロナウイルスのオミクロン株、インフルエンザウイルスは、もはやどこに存在しているかわからず、自分自身が注意していても感染してしまう状況です。今まで行ってきた感染予防を再度確認し、更に免疫力を高める努力をしてください。

<厚生労働省より> オミクロン株に対しても、基本的な感染対策が有効です

ワクチンを接種していても感染するブレークスルー感染によって誰かに感染させてしまいますケースが発生しています。ワクチン接種後も「マスクの着用」や「手洗い」、「3密（密接・密集・密閉）回避」「換気」など基本的な感染対策を徹底し、体調不良時は外出や移動を控えるなど感染拡大防止にご協力をお願いします。一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。